

校長先生の初恋物語

第56話 ミッタ解散 そして新しいミッタへ

足長君はとっくんの目の前に立ちました。

「とっくん。ごめんよ。なんとなく、とっくんのこと、さけていたよ。理由はどうあれ、人を差別するのはよくないって、とっくんたちに教えてもらったことなのに。忘れてたよ。」

そのあと、いろんな子が、とっくんのところに来ました。そのほとんどの子が、泣いていて、とっくんだって泣いていて、よく見たら、アマーラさんも、によろひげ先生まで泣いていました。

ちん君が言いました。

「あれっ。てことは。もうとっくん大丈夫だね。そうなる

と、ミッタはあっという間に解散ってことになっちゃうね。」

アマーラさんが「そうなるね。」と言いました。

コージ君は大きな声で、「かいさーん。」

と言いました。

でも、その後すぐに、ダンプさんが言いました。

「みなさんに、提案があります。わたしたちみんなも、そのミッタに入れてもらいませんか。そして、このクラス全員がミッタになって、もっといい仲間になっていきませんか。」

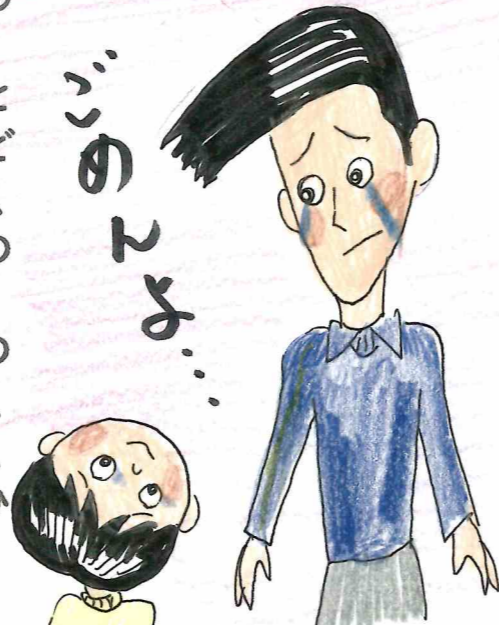
きんに君がさげびます。

「それ、最高だチョー。」

足長君がとっくんに言います。

「とっくん、ぼくたちみんな、ミッタに入れてくれよ。だめかなあ。」

だめなわけありません。とっくんは、コージ君とちん君を見ました。2人はうんうんとうなずいていました。アマーラさん



もうんうんと顔を縦にふっていました。最後にとっくんは言いました。

「いいねえ。そうしよう。」

ちん君が前に出ました。

「ということで、ぼくからみなさんに提案があります。4人だけのミッタはすぐに解散しましたが、新しいミッタをつくります。このクラスのみんが、ミッタの秘密組織の仲間ってことです。」

今度は足長君が前に出ます。足長君はとんでもないことを言い出します。

「ぼくからも、提案があります。6年生になりました。また、学級委員を決めなくてははいけません。ぼくは、とっくんが学級委員になればいいと思います。みなさん、どうですか。」

なんと、みんながおっきな拍手をしてくれました。によろひげ先生も、

「こりゃ、悩まなくても決まりだな。」

どうれしそうに言いました。

とっくんは、みんなの前に立たされて、学級委員としての最初のスピーチをしました。用意もしてないから、困ってしまいましたが、あの言葉を思い出して言いました。

「学級委員になりました、おやいづとしのりです。地球の平和はぼくが守ります。」

大爆笑でした。

クラスのムードは最高だったんです。みんながミッタになって、6年2組の心は、1つになったと思えたんです……。でも、この最高にいいムードを、あの人がぶちこわしてしまうんです。

「くだらねえな。」

つづく

次回予告 本当のことを言います

